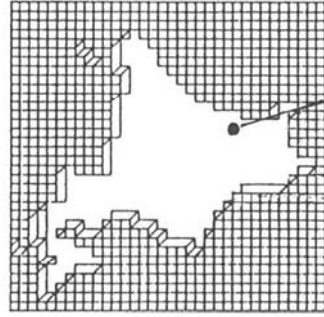


## 連載



ところ

### ◆常呂農業の黎明

常呂町第二期総合計画（一九九二年～二〇〇一年）の理念には、  
 「常呂には先史時代から人間が住み、大陸を、海を渡って来る様々な文化の交流がありました。  
 いま耕す土地にも、豊かな海や湖にも、空を渡る風にも、そんな歴史の息づかいが満ちています。  
 生産は自然や歴史風土が培うものであり、それを加工し流通させる社会経済は文化の土壌となりま

す。まちづくりとは、こうした産

あのマチ・地域おこし活躍中  
 このムラ

No.6

## 常呂町の事例

ゆとりのある農村生活をめざす

### 「常呂町第四次農業振興計画」

業文化を守り進展させ、それを担う人間を育てることです。

そして、それらを包む環境をつくりだすことで新しい町の歴史が生まれるでしょう。

私たちは郷土の歴史を知り、おこし、無言で語る歴史の声を聞きながらまちづくりをすすめます」と、謳っています。

常呂に人類の足跡が記されたのはおよそ二万年前と謂われ、町内の史跡からは先住民の貴重な遺産が発掘されています。しかし、こ

の地に和人の定住が記録されるのは明治一三年（一八八〇）まで降ります。

本格的な常呂農業の始まりは、明治一八年（一八九五）の土佐団体、同三〇年（一九〇七）の畷阜団体の入植以降となります。

爾来百年余、開拓と改良の鍬が入れられ、今日の地味豊かな常呂農業の基盤が創られて来ました。

なお、「土佐」「畷阜」の地名は、現在も常呂の主要な農業地帯に継承されています。

### ▼収穫を終えた豆の二オ積み



## ◆地勢と気象

常呂は東経一四四度、北緯四四度に位置します。南の丘陵地帯から、常呂川とその支流のライト川、常呂川と中小河川が町を縦横にはしり、流れるは北のオホーツク海とサロマ湖に注ぎます。

河川の恵みは、平野部に沖積土と泥炭土の地味豊かな土地を広く分布させますが、丘陵地の一部には比較的地力の低い洪積土も分布

### ◀緑肥作物のキガラシ



します。また、常呂川最下流域に位置することから、上流地帯の多雨によって河川氾濫が頻発する宿業も併せ持っています。

気象は、「日照時間の長さ」と「降雨量の少なさ」に特徴づけられます。しかし、夏は時折フェーン現象による異常高温に見舞われるいつぼう、冬は流水と一緒に渡つて来る北風が外気を著しく冷やします。

平成六年は、日照時一、七九八時間、年間降雨量六七四mm、年平均気温六・七℃、最高気温三六・九℃、最低気温氷点下二・三℃を記録しました。

## ◆農業の位置

常呂町の総面積は二七、八二九ha、およそ半の二三、七八五haを山林が占めます。農地の総面積は四、八五三haで、その殆どが畑地となっています。

町の人口は五、四〇六人（平成七年国勢調査、過去一〇年間で約一割減少しました（昭和六〇年人口・五、九七三人）。

常呂町の産業・経済は、農業と

漁業がその中核を担っています。平成五年の、農業生産額は五一億円、漁業生産額は六二億円でした（表1、表2）。

昭和三五年に六一三戸であった農家戸数は、平成六年には二〇戸まで減少しましたが、専業農家の割合は八九%に達します。離農跡地を規模拡大指向の強い農家が引き継いできた結果、一戸当たり平均経営面積も二二haを超えました。

常呂農業の歴史は災害（とりわけ水害）との戦いの歴史でもありました。町内には河川氾濫に備え、膨大な費用を投じて排水施設が張りめぐらされていますが、自然の

猛威はそれを凌駕し、度重なる災害が農家の経営と生活を襲いつつきました。

（JAとこのころの農産物支払額は、平成元年43億円、二年46億円、三年59億円、四年40億円、五年50億円、六年49億円の実績であり、最近年も平成三年を除くと何らかの気象災害に遭遇したことを示しています）。

## ◆農業の形態

常呂の農業は、進取の気風に富む農家群によって気象などのハンディキャップを克服し、様々な作物生産への挑戦が進められてきました。特に昭和四〇年代には二

表 - 1  
常呂町産業別就業者数

業種	就業者数
農業	7 3 4
農林業	2 2 2
漁業	6 6 6
建設業	1 6 9
製造業	4 3 5
道路熱業	5
水運通信業	7 8
卸売飲食業	3 7 3
金融保険業	1 3 3
不動産業	5 9 6
その他の業務	1 4 3
計	3 2 2 0

\*平成2年10月1日現在

二つの生産・販売量が全国一となった輝かしい経歴も持っています。しかしその後は、離農の進行、経営規模拡大、労働力不足、機械化体系への転換という足取りを続け、土壌と気象条件に依拠した畑作三品中心の経営形態を伸展させてきました。

平成七年、JA調査による畑作三品の作付面積は、三、九七六ha（小麦一、七七一ha・てん菜一、一七五ha・馬鈴しょ一、〇二〇ha）で、全体農地（四、七九一ha）の八二%を占めます。

◀ 小豆の脱穀作業



表-2 常呂町産業別生産金額

産業名	生産金額
農業	5, 107
漁業	6, 294
商業	6, 561
(小売業)	(6, 132)
製造業	5, 665
(食品)	4, 860

単位：百万円

- \* 農業、漁業は平成5年生産額
- \* 商業は平成6年販売額
- \* 製造業は平成5年出荷額
- \* ( ) 内は内数

表-3 有機物の施用不足状況 (%)

量・質ともに不十分	67.9
量は十分だが質が不十分	12.5
計	80.4

\* 平成7年3月常呂町農家アンケート調査から施用不足と回答した割合

◆ 常呂農業の現状課題

平成七年三月、常呂町の農家全戸（経営主、配偶者、後継者）を対象にアンケート調査を実施しましたが（回収率九三%）、それらを通じて常呂農業が今日抱えている主要な課題としては、次のことが挙げられます。

- ① 堆肥など有機質の土壌投入が不足傾向にあり、地力の低下による単位収量の減少と、病虫害発生率の増加が懸念されます（表3）。
- ② 畑作三品の、買上価格据え置きあるいは引き下げによって農家所得が減少傾向を示しはじめています。

③ 後継者難などを理由とする離農が引き続き発生しており、その際特に、土壌条件不利地では農地の遊休化が懸念されます。

④ 家族労働力に限界があり、雇用労働力も不足しているため過重労働にならざるを得ないとする農家が過半を占めております（表4）。

⑤ 右の④とも関連して、農業者のなかに生活面での不満感が内感しているように感じられます。

⑥ 農家の新規作物（野菜など）導入に対して、これらをJAなど関係機関が機能面で誘導や支援をするシステムが未だ不十分と感じられます。

◆ 振興計画の策定

平成8年～12年の、第四次農業振興計画を「常呂町農業振興対策推進協議会」が中心となって策定し、現在これを基本に地域内の組織討議を進めております。

生活と経営を車の両輪に見立て、その調和を重視しようとする計画（案）の一部をご紹介します。

1 働きやすく暮らしやすい環境づくり

① 農休日の設定

（平成8年・毎月第四日曜日）  
12年・毎週日曜日が農休日をめざします）

② 地域の生活改善活動

「ところ産」の食料資源を有効利用し、健康で合理的な食生活を推進します）

2 常呂農業の担い手育成

① 健全な生活と経営の継承  
（祖先から譲られた良き伝統を大事に継承し、時代にふさわしい常呂の農村文化を育てます）

② 後継者の育成

表-4 労働量に対する評価 (%)

	経営主	配偶者	後継者
非常にきつい	18.2	14.2	14.3
ややきつい	40.2	45.5	38.8
計	58.4	59.7	53.1

\*平成7年3月常呂町農家アンケート調査から労働量がきついと回答した割合

- ③新規就農者の受け入れ  
します)
- ③ 生産基盤の整備
- ①土地基盤の整備  
(土壌条件不利地の整備・改良により農地遊休化を回避します)
- ②土づくり運動の強化  
(おいしく・安心して食べられる農産物)を生産するため健康

- な土づくり農業を推進します(平成12年の緑肥導入は全体農地の25%をめざします)
- ③農作業の効率化  
(圃場区画の改良と農地の集約化を推進し、農作業の効率化をめざします)
- ④コストの低減対策  
(機械の共同所有などコスト低減対策を重点化し「一歩先ゆく」農業をめざします)
- ⑤所得の向上対策  
(有機栽培を主体とした野菜の生産拡大と常呂ブランドの確立をめざし、需要者との間で「顔の

▼ビートの収穫作業



- 見える」結びつきを強めます)
- ⑥災害の未然防止対策
- ⑦農地の保全と継承  
(四、八〇〇haの農地を保全し、次の世代へ継承します)
- 4 営農集団の再編と組織活動の強化
- ①営農集団の再編・活性化
- ②生産組織の活動強化
- 5 販売力の強化
- ①販路の開拓
- ②市場調査とPR活動の強化
- ③JA取扱体制の強化
- 6 支援システムの拡充
- ①農業センターの活用  
(平成9年開設予定)
- ②JA生産・集出荷施設の整備  
(平成8年制度導入予定)
- ④農機レンタル事業の拡充とコントラクター事業への取り組み
- ⑤農業情報システムの構築  
(「ところ農業」に関する情報発信を強化し、需要者などとの連携をはかります)

▼ところ特産の野菜たち



- 7 農業所得目標(八六〇万円)の達成をめざします。
- 常呂町農業振興計画に係る基礎調査に携わった一人として、地域全体が第四次振興計画の目標をめざして果敢に挑戦するいつほつて、これからの時代変化にも柔軟に対応し、着実な課題への取り組みが遂行されることを期待します。  
(レポーター  
特別研究員 土屋 一彦)